

## 東北地域における雑草研究と「東北の雑草」の役割

日本雑草学会会長 原田二郎\*

東北雑草研究会が日本雑草学会の支部として新たにスタートし、その機関誌「東北の雑草」が刊行されたことに対して日本雑草学会を代表し心からお喜び申し上げます。

東北地域は、これまでもそうであったように、これからもわが国の最も重要な食料の供給基地であり続けるでしょう。また、雑草防除の面では、東北地域は寒冷地に属し、北陸や寒地である北海道と同様に、春季低温のため雑草の発生がばらつき、除草剤による防除は一層困難な地域でもあります。したがって、東北の農家の雑草防除にかかる意気込みが格別なものであるのも容易に理解できるのです。

水田の雑草防除を例にあげると、近年のスルホニルウレア (SU) 剤のような低薬量で殺草スペクトルの極めて広い薬剤の普及により、東北の水田でも雑草防除は一段と容易になってきたのも事実であります。反面、SU 剤抵抗性雑草の出現や、これまで防除のターゲットとされてきたオオアブノメ、スブタ、ミズアオイ、デンジソウ、アギナシ等の草種は年々減少し、環境庁のレッドデータ

ブックに絶滅危惧種、準絶滅危惧種として記載され、保護の対象とされる等、新たな問題も発生してまいりました。また、畑作・飼料作についてみると、近年の交通機関のめまぐるしい発達と農産物の自由化による輸入量の著しい増加に伴って世界各国から帰化雑草が侵入・定着し、各地で猛威を振っております。これは単に農耕地の雑草問題としてだけではなく、遺伝子拡散による在来種保全の面からも憂慮すべき点であります。さらに、内分泌攪乱化学物質の発見を契機に農薬の人畜や環境に対する安全性評価も新たな視点から見直されるようになってまいりました。

このように東北地域にも山積する雑草科学の諸問題を解決し、生態系と調和した東北農業を守るため、東北雑草研究会会員の今後のご活躍に期待しております。このためにも「東北の雑草」は研究成果の発表の場として、会員相互の情報交換の場として必ずや重要な役割を果たしていくものと確信しております。

最後に、日本雑草学会の「雑草研究」と「Weed Biology and Management」へのご投稿もお忘れなくと申し上げ筆をおきます。本当におめでとうございます。